

令和5年度総会、講演会及び意見交換会

1. はじめに

去る4月21日(金)に行われました「第32回道央技術士委員会総会、講演会及び意見交換会」について報告します。

開催日：令和5年4月21日(金)

場 所：ふれんどビル(苫小牧)

時 間：16:00～19:30

実に約3年振りの対面式の総会となり、新しいメンバーを含む19名の参加者で行われました。

2. 総会

(1) 議案

昨年度の活動報告として、新型コロナウイルス感染防止のため、講演会及び総会をリモートにより実施したことの報告がありました。また、今年度の活動予定として、施設見学会(3回)、講演会及びCPD技術研修会実施の報告がありました。また、地域貢献として防災まち歩きの実施を検討している旨の説明がありました。

(2) 北海道本部事務局次長の挨拶

北海道本部事務局次長 長井智典氏より「技術士を巡る最近の動向」として、試験結果、統括本部からの話題及び北海道本部の主な動向についての報告がありました。



長井氏のご挨拶(別会場からオンライン配信)

3. 講演会

今年、当委員会管内に2名の若手新人技術士が誕生しましたので、自己紹介を兼ねた合格体験についてご講演を頂きました。

(1) 池下雄哉技術士の講演

池下技術士は、苫小牧市出身で株式会社榎崎製作所にて、橋梁・鉄鋼品を取り扱ういわゆるファブリケーターとして、主に橋梁の照査業務を担当されております。また、エスコンフィールド HOKKAIDO の稼働屋根台車や新札幌アクティブリンクなど、近年話題の建造物にも関わっているとのことでした。

技術士の部門は建設部門：鋼構造およびコンクリートで合格されました。合格までの道筋を、失敗を混じえたユニークな切り口でお話されました。現在は、橋梁の詳細設計業務という高度な設計業務にも取り組んでいるようです。

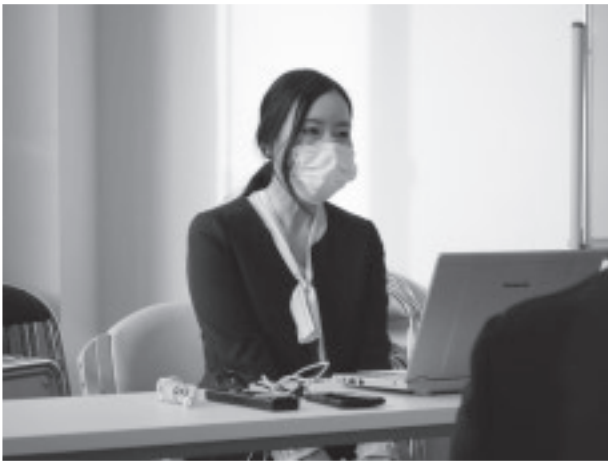


池下技術士のご公演

(2) 矢野加奈技術士の講演

矢野技術士は、札幌市出身で株式会社胆振にて、治山施設や道路施設の維持管理業務に従事されております。矢野氏は、遺跡の発掘など考古学の仕事に10年ほど従事されるなど、少々個性的な経歴をお持ちの技術者として、技術士補として、以前から当委員会に積極的に参加されておりました。

技術士の部門は建設部門：河川、砂防および海岸・海洋で合格されました。口頭試験直前の知恵熱？エピソードに会場は笑いに包まれました。今後は防災知識の研鑽や考古学会での研究発表といったバイタリティ溢れる目標を語って頂きました。



矢野技術士のご公演

4. 意見交換会

テーマを「人的資源管理や道央技術士委員会の活性化方策～技術士の市民への貢献方法を探る」として、意見交換会を実施しました。意見交換会では、近年の防災意識の高まりや技術士が地域貢献できるフィールドに着目し、地域と協働した防災まち歩きを実施するという意見でまとまりました。

懇親会では、中野裕隆技術士の乾杯の音頭で開会され、総会、講演会の内容についての話題や近況報告など、技術部門や世代を問わず技術情報の交換が活発に行われました。

また、技術士会の正会員として35年以上貢献され、本部より表彰を受けた小島尚三氏に当委員会からも記念品を贈呈致しました。小島氏は地質の技術者として南極地域観測隊としてもご活躍された経歴があり、興味深いお話を聞かせて頂きました。

最後に栗山昌樹技術士の挨拶と締めのご発声をもって盛会の内に閉会致しました。



意見交換会の様子



小島技術士のご挨拶

5. おわりに

コロナ禍の3年間では、人々の交流や移動が制限されましたが、一方でオンライン会議、リモート技術、テレワークなどのデジタル技術や働き方が急速に変化しました。当会でも同様にリモート中心の活動となり、慣れないオンライン会議やサテライト会場の設営など、新しい技術を用いた活動が大変ではありましたが、同時に楽しい経験でもありました。

今回は待望の対面式の総会・講演会が実現し、実際に顔を合わせた交流を通じて、オンラインではなかなか話せないような深い内容についてのお話ができるなど、対面式のコミュニケーションの貴重さを再確認しました。

さて、当委員会では、今年度も前述した各イベント開催を予定しており、より技術の研鑽に励むとともに、技術を以て持続的に地域への貢献を図っていきたくと考えております。